

熊本支部再結成30周年お祝い申し上げます。コロナウイルス感染症禍の沈滞した状況のなかでの慶事に、心が晴れる思いがします。

30年前はどんな年だったろう。私は何をしていたのだろう。どんな切手が発行されたのだろう。振り返れば世は平成となり、バブル景気に沸き比較的平穏な日常のなかで、私はまだまだ仕事に励み、海に山にと駆け巡り、ある日は酒を飲み友と語り充実した日々を送っていた当時が思い起こされます。

そして、切手はというと未使用・使用済の区別なく目に入ったものをその都度自分なりに整理・保管しておくという、どちらかというと消極的な収集を続けていました。今でも基本的にはその姿勢が変わった訳ではありませんが、8程年前熊本支部に入会して以来、支部の皆さんに触発されながら活動を続けているところです。

30年前の1991年、日本切手は2月19日発行のふるさと切手（R91香川県）那須与一・源平屋島合戦を皮切りに12月2日平成4年用年賀切手迄が発行されました。それから30年間数多くの切手が発行され、今年は東京オリンピック・パラリンピックを記念する切手も発行されました。

IT技術の発達、通信の多様化、物流の効率化など切手を取り巻く環境は変化し続けており、切手の先行きは不透明感がありますが、民間宇宙旅行も成功したこともあり、ひょっとして宇宙郵便局発の切手が手に入るかも・・・

熊本支部再結成30周年にあたり、つれづれなる様に想いを巡らす今日です。

